

# 国立国語研究所学術情報リポジトリ

国語研の窓 第1号 (1999年10月1日発行)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-03-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.15084/00001960">https://doi.org/10.15084/00001960</a>

季刊 国立国語研究所 広報誌

# 国語研の窓

## もくじ

連載		
暮らしに生きることば	p.1	
連載 国立国語研究所の紹介		
国立国語研究所創設のころ	p.2	
研究プロジェクト紹介		
話しことばのデータベース	p.3	
事業の新展開		
日本語教育センター	p.4	
インターネット公開情報の紹介		
日本語教育の情報基地	p.4	
研究成果の紹介		
『方言文法全国地図』		
第4集 表現法編 I	p.5	
『テレビ放送の語彙調査Ⅲ		
—計量的分析—	p.6	
ことばQ&A	p.6	
国際シンポジウム報告	p.7	
国際シンポジウムのご案内	p.7	
ことばフォーラムのご案内	p.8	
公開研究発表会のご案内	p.8	

平成11年10月1日 第1号  
 発行 国立国語研究所  
 The National Language Research Institute  
 編集 国立国語研究所企画広報委員会  
 〒115-8620 東京都北区西が丘3-9-14  
 電話 03-3900-3111 FAX 03-3906-3530  
 URL <http://www.kokken.go.jp/>



国立国語研究所の全景

## 連載第1回 暮らしに生きることば

研究所では、全国各地にでかけ、暮らしの中のことばを録音して研究に活用しています。

以下の会話は京都市中京区のKさん宅でインタビュー調査した時の一コマです。Kさんは大正2年京都生まれの女性です。

所員 「じぶんどき」っていうことばはどういう意味ですか？

Kさん 「時分どき」って、食事の時分どきってことですよね。

所員 食事の時間？

Kさん 時間ですね。お昼とか、夕方とかね。

所員 それはどんなふうを使うことばなんですか？

Kさん そうですねえ。お昼に差しかかってくるとね、それ言うて、みー(身)引くのが、エチケツトどすわな。

所員 なるほど。

Kさん そやなかったら、いつまでも座ってたら、お膳出さんならんことになりますしね。(笑)

所員 そういうときに「時分どき」ってことばを……。

Kさん そうどすな。「もう、時分どきやから、これで失礼さしていただきます」言うて帰らはります。

所員 お客様の方が言うことばですか？

Kさん ま、その時に、どうしても寄せてもらわんならん時やったら、「ご時分どきにすんまへん」とか言うて……。

この会話では、よその家を訪問した時の心配りが話題になっています。客の側では食事どきを避ける、また迎える側でも食事のもてなしを気にかける、そのような心配りが、「時分どき」ということばに込められています。



連載 ①

## 国立国語研究所の紹介

# 国立国語研究所 創立のころ

国立国語研究所長 甲斐睦朗



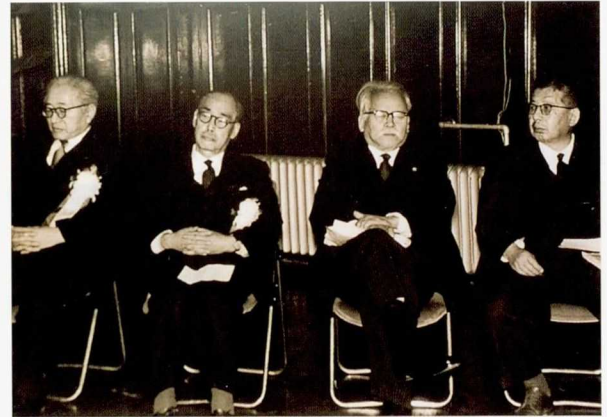
国立国語研究所は、昨年の12月20日に創立50周年を迎えました。その記念として、式典、研究発表会、研究室公開やポスター発表などを1週間ほどかけて行いました。それらに出席していただいた方々からは「国立国語研究所がこの50年間にどのように日本の国語研究に力を尽くしてきたかがわかった。」などと祝福していただきました。しかし、出席していただけなかった数多くの方々のために、何とかして、国立国語研究所の研究成果、研究動向などについてご報告したいと思っております。

幸いにも広報誌『国語研の窓』を発刊する運びになりました。そこで、4回の連載で国立国語研究所の概略をご説明することにしました。今回は、第1回として、国立国語研究所の創立のころの国語問題の状況についてご紹介します。

国立国語研究所が創立されたのは昭和23年の12月20日です。その翌年の春に出版された『国語調査沿革資料』（文部省教科書局国語課編）の「年表」には、終戦直後の国語に関する文部省等の動きが詳細に取り上げられていて、国立国語研究所がどういう国語国字問題の動きの中で誕生したかがよく伝わってきます。そこで、戦後3年間の国語審議会総会の審議課題を紹介しながら、国立国語研究所創立の流れをたどってみましょう。

昭和20年11月には早くも第8回国語審議会総会が開催され「標準漢字表」案を審議しています。この課題は、大正10年代から長年継続審議してきたもの

創立10周年記念式典（昭和34年3月6日）



西尾実氏（初代所長） 土岐善麿氏（評議員会会長） 安倍能成氏（来賓） 片山哲氏（来賓）

で、昭和21年4月の第9回では「常用漢字表（1295字）」案に改められましたが、結局、5月の第10回で否決されました。そして、9月の第11回では「現代かなづかい」が議決されると同時に、大規模の国語研究機関設置を希望する件が附帯決議として採択されました。これが国立国語研究所になるわけです。そして、その2か月後の第12回では1850字の「当用漢字表」を議決しています。

その翌22年8月には、安藤正次氏外5名が提出した国語国字問題の研究機関設置に関する請願が第1回国会に提出されました。その国会の審議については『国立国語研究所設置法衆議院参議院議事録』が所長室に保存されています。国会議員による熱心、周到、そして、真摯な討議が行われていまして読者の国語研究への熱意をかき立てます。国立国語研究所設置法は、昭和23年11月に国会を通過成立し、12月20日に公布されました。

以上、国語審議会総会を5回分紹介するだけでも、終戦直後の国語に関するあわただしい動きを知ることができます。この背後にGHQなどによる文字表記のローマ字化の検討の問題をすえてみますと、なぜ当用漢字の制定を急いだかなどの事情が理解できます。国立国語研究所は、国語の合理化を図るための科学的調査研究を行う研究機関として設立されたのでした。その国立国語研究所が、この50年間にどのように国語の合理化のための調査研究に取り組んできたかについては、次号以下で述べることにします。





# 話しことばのデータベース

前川喜久雄 (言語行動研究部第二研究室長)

話しことばは我々のもっとも基本的なコミュニケーションの道具です。しかし、話しことばの言語学的な研究には、書きことばに比べると様々な困難がともないます。なかでももっとも大きな困難はデータの作成にあります。

例えば、話しことばの文法を実際のデータに基づいて研究しようとする人は、録音された話しことばをそのまま利用するのではなく、何らかの形で文字に書き起こすのが普通でしょう。しかし、この作業に要する労力は大変なものです。簡単な書き起こしであっても録音時間の数十倍、精密な書き起こしであれば百倍以上に達する時間が必要となり、この作業量が話しことば研究の規模をおのずから制約してしまいます。

このような労力は、少なくとも現代語に関するかぎり、書きことばの研究には必要とされません。特に現在では多くの書きことばが最初から電子媒体によって提供されるようになってきていますから、それを言語研究用データとして整備する作業は、話しことばに比較すればはるかに少ない労力で実施することができます。

話しことばの研究データの整備にまつわる困難には、作業量のほかに話しことばと書きことばの本質的な相違に起因するものもあります。特に重要なのは話しことばには文字には書き起こせない情報が多量に含まれている点です。声の性別や個性、あるいはイントネーションや話す速さの変化などがその典型ですが、話しことばの特質に即した研究を行うためには、こうした情報を抽出して研究に利用できる形に整理することも必要となってきます。

話しことば研究の進展を阻むこのような問題を解消



講演音声の収録  
デジタル型マイク  
ヘッドホンに装着して  
音声を収録する。



収録された音声の書き起こしと分析  
コンピュータに入力した後、文字に書き起こしたり音声の特徴を分析したりする。後方に見えるのは対話を収録するための専用防音室と録音録画装置。

するために、国語研究所では現代日本語の話しことばのデータベースを作成することを決定しました。書きことばの朗読ではない、多少とも自然な状況で発せられた自発的な音声を多量に収録し、付加情報と共にコンピュータに保存して種々の学術的利用に供しようというプロジェクトです。このプロジェクトは郵政省の通信総合研究所関西先端研究センターと共同で実施するもので、研究費は科学技術庁の開放的融合研究制度に依っています。正式名称は「話し言葉の言語的・パラ言語的構造の解明に基づく『話し言葉工学』の構築」、総括責任者は東京工業大学の古井貞熙教授です。

プロジェクト全体の目的は、通信総合研究所のもつ自然言語処理技術と国語研究所のもつ言語学的知見を融合して次世代の音声言語処理技術、例えばより本格的な音声認識技術やメッセージの要約技術を開発することにあります。そして国語研究所はその基礎となる話しことばデータの作成と解析に取り組みます。平成11年度から5年間の研究期間に約1000時間の音声を収録し、音声とその書き起こしテキストに加えてテキストの形態素解析結果を公開する計画です。さらに100時間程度については、上記の情報のほかにイントネーションや談話情報などの言語研究用情報を付加することも予定しています。

プロジェクトの詳細と成果については今後さまざまな機会に報告したいと思います。このデータベースの公開が我が国における話しことば研究の起爆剤となることを期待しています。



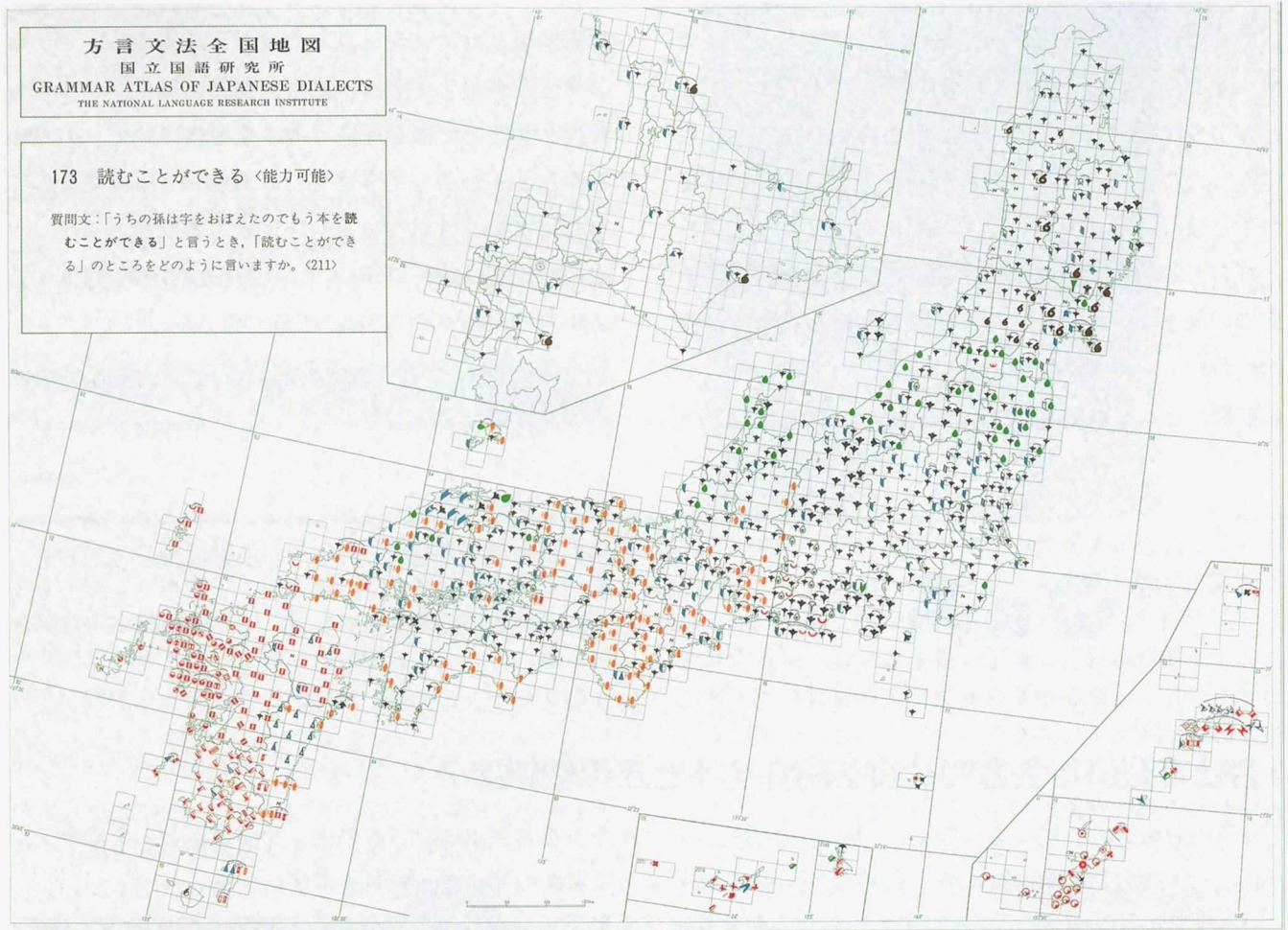




研究成果の紹介

方言文法  
全国地図

第4集  
表現法編 I



「うちの孫は字をおぼえたのでもう本を読むことができる (能力可能)」ということを友だちに話すときの表現は、全国の方言を調べてみると約200とおりのバラエティがあります。上の地図の水色記号は「読むことができる・読むごだできる・読むこつがでくる・読むごだあでる」の類、紺色記号は「読める・読むる・ゆーみん」の類、緑色記号は「読まれる・読めれる」の類、橙色記号は「よー読む」の類、茶色記号は「読むにー」の類、赤色記号は「読みえる・読みゆる・読みきる・読んがなっ・ゆみみつり」などの類です。日本語の話しことばにはそれほど多彩な表現法があるのです。

『方言文法全国地図』は、全国807地点で、さまざまな文法・表現法267項目を面接調査で尋ね、得られた回答を記号にして地図上に示した言語地図です。第4集には、「行きはしなかった」などの否定表現16項目、「行っただだだ」などの条件表現6項目、「読むことができる」などの可能表現13項目、「おもしろかったなあ」などの過去回想表現12項目、「(運動会が)ありよる」などのアスペクト表現8項目について、55面の言語地図を収めています。また、地図化の方法、各図の解説、調査結果の生資料を詳しく示した解説書を付けています。

方言文法全国地図 第4集 国立国語研究所編 大蔵省印刷局発行 平成11年4月刊

研究成果の紹介



テレビ放送の  
語彙調査Ⅲ  
—計量的分析—

多くの日本人にとってテレビはとても身近なものです。そのテレビで、どのような単語がどれほど、また、どのように使われているのか。その実態を探ろうとして行ったのが「テレビ放送の語彙調査」です。テレビのことは音声と画面の両方で伝えられますが、そのどちらも雑誌や新聞などとは違ってアッという間に消えていきます。それを大量に記録し、どんな単語が何回使われているのかを一つ一つ数えていくのです。その結果、どんな番組でどんな単語がよく使われるのか、

番組本編とコマーシャルとではどう違うのか、アナウンサーやタレントでは、また、同じアナウンサーでも男性と女性とではどう違うのかなどについて、いろいろなことがわかってきました。詳細は3冊の報告書にまとめていますので、『テレビ放送の語彙調査Ⅰ—方法・標本一覧・分析—』や『テレビ放送の語彙調査Ⅱ—語彙表—』もあわせて、ぜひご覧ください。

テレビ放送の語彙調査Ⅲ 国立国語研究所編 大日本図書発行  
平成11年4月刊

ことば Q&A

なにげなく使っていることばについて、ふと疑問に思うことがしばしばあります。

ある日、ある会社の庶務課長さんから、こんなご質問がありました。

会社で開いた会合で社長を紹介するときの敬語は？

**質問** 勤務先の会社で会合を開きます。会を始める時にあいさつする社長のことを司会者が紹介するのですが、その際に敬語は使っているのですか？

**回答** その会合にどんな人たちが出席なさるのか、司会者がどんな立場で司会なさるのかによって敬語の使い方も変わります。

社員だけが出席する社内の会合なら「社長からごあいさつがあります」「佐藤社長からのお話をうかがいます」などのように、社長への尊敬表現や社長に対する謙譲表現を使うのがよいでしょう。

社外の方たちを招いて開く会合であれば、「社長の佐藤からごあいさつを申し上げます」とか「当社社長がごあいさついたします」のように、来客へのへりくだりを表す謙譲表現を用いるのがよいとされています。社長も身内として扱って来客にへりくだった気持ちを表現するわけです（要旨）。

日ごろ、ことばについて疑問がわいてお手元の書物や辞典などで調べてもよくわからないようなときは、この「ことばの質問」にファックスやお手紙でお寄せ下さい。

ご質問には極力お答えすると同時に、この「ことばQ&A」でも取り上げてまいります。

なお、お電話の場合は担当者が会合に出ていたりして即応できないことがあります。

●問い合わせ先

住所 〒115-8620 東京都北区西が丘3-9-14  
国立国語研究所「ことばの質問」受付

FAX 03-3906-3530

電話 03-3900-3111(代表)



**全体会 バイリンガリズム—日本と世界の連携を求めて—**  
平成11年7月25日(日) 国立オリンピック記念青少年総合センター

国内在住の外国人が増し、外国人児童生徒の公立学校での受け入れも増えています。今、学習者の母語を視野に入れた日本語教育に真剣に取り組むべき時期にあると考えて、このシンポジウムを開催しました。米国・メキシコ・カナダ・日本在住の6名の研究者による、日本語と欧米諸語という距離のある言語間の併用（バイリンガリズム）の実態や教育についての研究発表が行われました。会場いっぱいの参加者、そして、熱心な討論が、関心の高さを示したシンポジウムでした。

**第1専門部会 日系ブラジル人のバイリンガリズム**

平成11年7月24日(土) 国立国語研究所講堂

国外・国内の両方で、日系人の最大グループである日系ブラジル人に焦点を当てて、日本語とポルトガル語の併用の実態と日本語教育についての研究発表が行われました。

まず、ブラジルの2言語併用と日本語教育を取り上げた発表、次に日本国内に目を向けた研究発表と続きました。その後の質疑・応答の時間には、日系ブラジル人児童の日本語教育に携わる先生の切実な意見なども出され、熱気あふれる討論を重ねました。

**第2専門部会 東アジアにおける日本語観国際センサス**

平成11年7月23日(金) 国立国語研究所講堂

平成9年から10年にかけて、国立国語研究所が中心となって世界28か国で日本語の現状を客観的に把握するための国際比較調査を実施しました。調査結果を見ると、環太平洋地域の多くの国々では、各国の母語、英語に次いで日本語が重要とされていることがわかりました。このような日本語観国際センサスを踏まえて第2専門部会では中国、韓国、台湾、および一部に漢字文化圏をもつシンガポールを対象に、各国における日本語・日本語教育事情を中心に討議を重ねました。

**第3専門部会 学校教育における言語の教育と学習**

平成11年8月21日(土) 国立国語研究所講堂

この会は、学校教育での言語教育、主として日本語学習を必要とする児童・生徒に関する問題を考えることが課題です。本年度は、特に高校における日本語教育に焦点を当てました。この問題を多角的な観点からとらえるために、韓国の高校と日本人学校、日本人学生の日本語力育成を行っている国立大学、インターナショナルスクールや単位制高校からのお話を交えて、高校の先生約50名を中心に、分科会形式で情報交流を行いました。



**国際シンポジウムのご案内**

国立国語研究所では国際シンポジウムを一般に広く公開して開催しています。12月の第4専門部会は、対人関係に配慮したコミュニケーションについて、アメリカと日本の研究者が発表し討論します。どうぞご参加ください(入場無料)。

- テーマ：談話のポライトネス
- 日 時：平成11年12月4日(土) 午前10時～午後5時
- 会 場：国立国語研究所講堂 (1号館5階)

● 発表者・内容

宇佐美まゆみ (東京外国語大学) 「談話のポライトネス」  
東照二 (ユタ大学・米国) 「ポライトネス・ストラテジーの日米対照」

- パトリシア・ウェッツェル (ポートランド州立大学・米国)  
「ポライトネスの Final Vocabulary：日本とアメリカ」  
杉戸清樹 (国立国語研究所) 「待遇表現行動の枠組み」  
吉岡泰夫 (国立国語研究所) 「対話インタラクションとしての敬語行動」  
陣内正敬 (関西学院大学) 「談話における敬意表現の社会的多様性」

<参加申し込み・問い合わせ先>

国立国語研究所国際シンポジウム事務局  
〒115-8620 東京都北区西が丘3-9-14  
FAX 03-3906-3530 E-mail: mihayata@kokken.go.jp  
ホームページ <http://www.kokken.go.jp> にも開催案内が載っています。



国立国語研究所に行ってみよう！

ご案内 **ことばフォーラム**

国立国語研究所では公開のことはフォーラムを開催します。ことばやコミュニケーションをテーマにわかりやすくお話しします。また、三つの研究室を公開します。一般成人の方々から児童・生徒の皆さんまで、どうぞ参加ください。

問い合わせ先：国立国語研究所庶務課庶務係  
電話 03-5993-7603

●開催日時・会場

- 平成11年11月13日(土) 国立国語研究所講堂・各研究室
- 午後1時～1時45分 公開講演(1) 「ことばの意味を調べよう」 甲斐陸朗 (所長)
- 午後2時～2時45分 公開講演(2) 「対人関係の話しことば」 吉岡泰夫 (言語変化研究部長)
- 午後3時～4時30分 研究室公開(1) 「話しことばの研究方法」 言語行動研究部第二研究室  
(2) 「人がかわるとことばもかわる」 言語行動研究部第一研究室  
(3) 「方言地図の見かた・読みかた」 言語変化研究部第一研究室

●公開講演

(1) 「ことばの意味を調べよう」 甲斐陸朗 (所長)

わたしたちは、普段はほとんど意識しないでことばを使った生活をしています。ところが、相手の何気なく使ったことばが気になったり、あることばに興味をわいてもっと知りたいと思ったりすることがあります。そういうとき、手をのばした所に辞典があると助かります。引いて解決できるからです。ではどのような辞典が便利なのでしょう。

(2) 「対人関係の話しことば」 吉岡泰夫 (言語変化研究部長)

人間がお互いに理解し合い、尊重し合って生きていくためには、ことばの多様性を認め合った話しことばコミュニケーションが大切です。例えば、人づきあいで敬語をうまく使いこなすことによって気持ちを通じ合うことができます。気持ちや考えを伝え合うことばの働き、伝え合うことによって人間関係を築くことばの働きについて考えてみましょう。

●研究室公開

(1) 「話しことばの研究方法」 言語行動研究部第二研究室

従来の話しことばの研究では、話しことばを一旦文字に書き起こしてから、その文字化資料をデータとして研究を進めていました。しかし、このような方法では、話しことばの本質的な特徴の解明は困難だということがわかってきています。

私たちの研究室では、現実の音声を広範囲に収録し、分析することによって、音声によってしか伝えることのできない情報(専門的にはパラ言語情報と呼びます)の研究と、音声による対話についての基礎的・実験的な研究を推進しています。今回のデモンストレーションでは、話しことばを研究するためにはどのようなデータが必要か、また、それを分析することによって、どのような成果が得られるかについて説明します。

(2) 「人がかわるとことばもかわる」 言語行動研究部第一研究室

ひとくちに「日本語」と言っても、その人の住む地域や年齢や性別あるいは話をする状況などによりじつにさまざまです。同じ高校生でも東京と大阪ではことばづかいが少し違うそうです。また同じ東京の中でも、性別や年齢によりことばづかいはいろいろです。研究室公開では、最近実施したアンケート調査から、その多様な姿の一端をご紹介します。

(3) 「方言地図の見かた・読みかた」 言語変化研究部第一研究室

全国の方言の分布をあらわした言語地図に『日本語地図』と『方言文法全国地図』があります。それらの基本的な見かたと、そこからどのようなことが読みとれるかを、実物を使いながら説明します。

公開研究発表会のご案内

「日本語総合シラバスの構築に向けて」

日時：平成11年12月21日(火) 午前10時～午後5時  
場所：国立国語研究所講堂 (1号館5階)

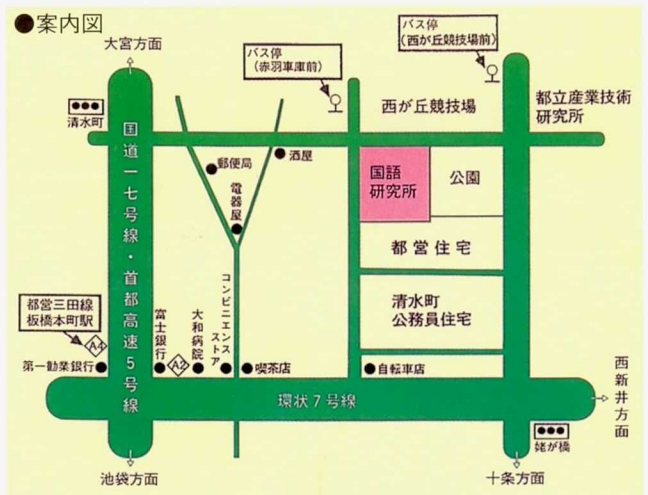
「視聴覚教材フォーラム5」

日時：平成11年12月22日(水) 午前10時～午後5時  
場所：国立国語研究所講堂 (1号館5階)

平成11年度国立国語研究所公開研究発表会は、「日本語学習のひろがり—日本語総合シラバスの構築に向けて—」と題して12月21日(火)に行います。「日本語総合シラバス」は、日本語を学ぶ外国人にとって必要になりうるすべての学習項目を網羅した学習項目表を作り、多様化する学習者の一人ひとりのために最適な学習内容を提案できるようにしようという構想で進めている研究テーマです。視野に入れる学習内容は、言語体系・伝達行動・文化を含む広い範囲にわたります。翌12月22日(水)には「視聴覚教材フォーラム5」公開発表会として、ビデオ教材を使った授業設計の例を発表します。両日も、参加自由、入場無料です。詳細のお問い合わせは、日本語教育教材開発室、担当：中道まで。

電話 03-5993-7661

E-mail makion@kokken.go.jp



【交通機関】

- 都営地下鉄三田線「板橋本町駅」下車徒歩10分
- JR埼京線「十条駅」下車徒歩20分
- JR赤羽駅(西口)より国際興業バス、西が丘競技場(赤羽車庫)行(バス停5番)で終点「赤羽車庫」下車1分